

大学病院に勤務する看護師が直面する倫理的問題

- 倫理的問題の体験頻度と体験後のもやもや感との関係 -

○池美保¹ 江藤由美² 井川順子³ 越村利恵⁴ 西村路子⁵
廣瀬泰子⁶ 松浦正子⁷ 江守直美⁸ 鈴木美恵子⁹ 市村尚子¹⁰
秋山智弥¹¹ 三日市麻紀子¹² 渡邊真紀¹³ 小藤幹恵¹⁴ 米道智子¹⁵

¹大阪大学歯学部附属病院 ²三重大学医学部附属病院 ³京都大学医学部附属病院

⁴大阪大学医学部附属病院 ⁵滋賀医科大学医学部附属病院 ⁶岐阜大学医学部附属病院

⁷日本赤十字豊田看護大学 ⁸福井大学医学部 ⁹浜松医科大学医学部附属病院 ¹⁰公益社団法人日本看護協会

¹¹岩手医科大学 ¹²富山大学附属病院 ¹³金沢大学附属病院 ¹⁴公益社団法人石川県看護協会

¹⁵公益社団法人富山県看護協会

【目的】大学病院に勤務する看護師が直面する倫理的問題の体験頻度と体験後のもやもや感に関する実状を明らかにする。

【方法】近畿中部地区国立大学病院に勤務する看護師 690 名を対象とした。対象者が倫理的諸問題に直面したときに体験するジレンマをもやもや感と定義し、EIS 日本語版を使用し、過去 1 年間の体験頻度「頻繁にあった(3 点)」「時々あった(2 点)」「ほとんどなかった(1 点)」「まったくなかった(0 点)」の 4 段階、体験後のもやもや感の程度「とてももやもやした(3 点)」「すこしもやもやした(2 点)」「あまりもやもやしなかった(1 点)」「まったくもやもやしなかった(0 点)」の 4 段階を自記式質問紙により調査した。本調査は滋賀医科大学倫理委員会の承認を受け実施した。

【結果】有効回答は 337 名(回答率 48.8%)であった。「患者に十分な看護ケアを提供できない看護師の充足状況」の場面が体験頻度(平均得点 1.95 点)もやもや感の程度(平均得点 2.43)ともに最も高かった。倫理的問題の 32 項目中 30 項目において体験頻度ともやもや感の程度に正の相関が認められた。最も強い相関が見られた場面は「ケアの質を脅かすような医療制度に従ってケアを実践すること(相関係数 0.69)」「患者が必要なケアを受けられなくなるような医療制度の元で看護すること(相関係数 0.68)」「費用のかかるまたは不足している医療資源をどの患者に配分するかということ(相関係数 0.67)」であった。

【考察】「患者に十分な看護ケアを提供できない看護師の充足状況」において体験頻度ともやもや感の得点が最も高かったことから 7 対 1 看護体制をとる大学病院で十分なケアが提供できていないと認識していると考えられる。倫理的問題の体験頻度が高いほど、もやもや感の程度が高いことから、倫理的問題に明確化されているが解決できていない、もしくは倫理的問題に立ち向かう力が弱い可能性が考えられる。これらから体験頻度をもとに看護師に倫理的場を意識させ、何に悩んでいるのか、何を倫理的課題ととらえているのか、自覚を促すだけでなく、もやもや感が残らないようにするための対処能力を強化していく必要があると考える。